



ビオトープに張った薄氷が、陽に照らされて輝く冬の朝

ようやく形らしくなってきたビオトープ。薄氷が張り、氷を取ってみようと手を伸ばすと、痛さを感じるほどに水は冷たく、季節の変化を感じさせてくれます。

これから季節が移り変わる中で、どんな自然の様子を映し出してくれるのかも楽しみになってきます。

春には緑に覆われるだろうか、夏にはメダカが元気に泳いでいるかな、秋にはきっと水面に紅葉が浮かんでいるだろうなどと想像することも楽しくなります。

自然の変化を感じ、豊かな感性が育まれる場所に…そう願ってビオトープを育てていきたいと思います。

風の子便り



KAZENOKO DAYORI

滋賀大学教育学部附属幼稚園



昔ながらの遊び～明日の自分に期待をもって～

新学期始業式、コマ回しを披露する。



「3回挑戦させてくれ」と失敗する前提で伏線を張るも、5回目でようやく技を成功させた副園長に対し、鮮やかに一発で技を決める園長先生。



「昔取った杵柄」幼少期に得た遊びの技術は衰えを知らず、お年を召した女性がいとも簡単にお手玉遊びを披露する場面に出会うことも多くあるお正月である。

コマ回し、お手玉、けん玉、なわとび、竹馬…

「できるようにならないと楽しくない遊び」は、粘り強く取り組もうとする力がついてきた子供たちにとっては、うってつけの遊びだと言える。

やり方を教えてもらったり、励ましあったり、コツを伝えあったりしながら、できるようになっていく子供たちの顔はとてとてもステキだ。

時に、運だけが勝負の行方を左右する「ぼうずめくり」などをはさんで一息つきながらも、**できるように**なっていくことを楽しめるようになってきた子供たちを眺めながら、進級・卒園が近づいていることにも気づく新春である。



探究へといざなう「問い」のポケット

園庭に野鳥の巣箱をかけることにしました。

子供たちが行き来する場所で巣箱を作っていると、「それなあに？」と声がかかります。

「うん、なんだと思う？」(もちろん巣箱です)

「スズメ？カラスのお家かなあ…？」



「耳を澄ましているとね、鳴き声が聞こえるの」

「知ってるー。でもそんなに入り口小さくて大丈夫なの？」

「うーん、大丈夫かなあ…」(もちろん調べています)

「鳥の羽ってふわふわしてるし、きっとはいれるんだよ！」

「ねえそれでどこにつけるの？時計のところに付けたら？」

「時計の音で驚いちゃうかもしれないねえ」

「えーほんとかなあー。先生うそ言ってんじゃないの？」

その後、時計の柱に耳をつけて音がするのかを確かめる子供たち。「音は大丈夫だけど、すぐ見つかっちゃうね、ここじゃないところがいいよ」とのこと。「じゃあどこにしようか？」話は続く。

確かな知識のポケット、不確かな問いのポケット、**答えを与える以上により深い探究へと**いざなうことができるように二つのポケットを駆使して楽しいやりとりをする毎日です。





～副園長のおしゃべり～

SDGsについて様々に思いめぐらせているが、持続可能な地球・自然環境、多様性と共生を実現する社会を創り出すモチベーションは「**私たちが生きている地球、そして自然はなんて美しくステキなんだろう!**」という感覚だと思う。身近な自然の変化や美しさ、豊かさに気づき、驚き、感動する。そのような情動を数多に体験していく中で、自然に親しみ、愛したり、畏敬の念を抱いたり…。日常にある自然の豊かさをより身近なものにして子供たちの心に留めていく。大切な仕事のひとつ。

1月1日、のどかであったはずの日常が大きく揺れました。能登半島地震では大きな被害が発生し、多くの方が被災されました。今もって日々不安が大きくなっていることに心を痛めます。

一日も早く平穏が戻ることを祈ると共に、犠牲になられた多くの方のご冥福をお祈りします。

季節のアルバム



「小鳥さん来てくれるかなあ」「そうだ！木の実を入れておいてあげよう」想像力を膨らませ野鳥の営巣を楽しみに、春を待つ年長児

「意外とやさしく投げたほうが回りやすい」と、自分の見つけたやり方を紹介したり、友達の様子をじっと見たり。頑張れ負けな年長さん

立派な白菜を収穫した年中児、どうやって分けようか思案中。栽培（農）は、生きることに直結するとても大切な活動なのです。



年長保育室で展開される「人形劇ごっこ」遊びアドリブでセリフを合わせていくのでストーリーは予測不可能！生活発表会も楽しみです。

かるた遊び。先生が読む札を聞いてすばやく絵札をとる子供たち。手をひざに超集中モード。伸ばした背筋からも緊張感が伝わります。

年少児の楽しいえのぐ遊びの様子。とても扱いが上手になりました。お正月ならではのモチーフをイメージ豊かにのびのびと描きました。辰年！

じつは料理ができる。「これ、おいしいな・・・」と思ったら作ってみる。最近は低温調理にハマって鶏ハムを作ってみたり、鶏肝の甘辛煮などを作ったりしている。まあ、小学生の時はいわゆる「かぎっ子」で、おやつにリンゴを自分で皮をむいて食べたりしていたし、早くから包丁は使っていた。ありがとう、母君。最近娘に「玉子焼き」をほめてもらって毎朝調子に乗っている。玉子焼きは砂糖を入れたほうが断然うまいと思っているが、あなたはどっち派？

いつもコメントありがとうございます

たくさんコメントをいただきました。玉子焼き論争、各家庭にそれぞれの味があるようです。

砂糖派、醤油派、塩派、めんつゆ派、お弁当用にはマヨネーズを少し入れるという裏技を実行される方もそれなりにいらっしゃいました。職員室でも盛り上がりました。

一番の裏ワザは卵2個に玉子豆腐を半分！これでだし巻きに仕上がるそうです。

お名前

